令和7年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	文化財保護事業	担当課名	産業振興課
		担当係名	文化遺産活用係
（予算書コード）	07-01-07-10-01		
事業区分	単年度予算 ／ 運営方法	直営 ／ 委託	
事業の開始・終了	年 月 ～ 年 月 （事業に始期又は終期がある場合に記入）		
根拠法令等の名称	文化財保護法、下諏訪町文化財保護条例		

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	国指定天然記念物「八島ヶ原高層湿原」はじめ、国・県・町指定文化財や国登録文化財を適切に保存・管理し、良好な状態で次世代へ継承するとともに、積極的な情報発信を通じて、町民が文化財に親しみ、理解を深める機会を充実させる。						
事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和5年度	令和6年度	令和7年度
	指定文化財・登録文化財の件数	指定・登録により保存を図っている、指定・登録文化財の件数をカウント	件	目標	67	68	68
				実績	69	69	72
				達成率	103.0%	101.5%	105.9%

【投入されたコスト・業務量】

		令和6年度決算	令和7年度決算	令和8年度予算
事業費	事業費 A	5,476 千円	7,954 千円	8,783 千円
	うち 会計年度任用職員人件費	人 千円	人 千円	人 千円
	正規職員人件費 B	0.80 人 5,550 千円	0.80 人 5,836 千円	0.80 人 6,005 千円
事業費合計 C（A＋B）		11,026 千円	13,790 千円	14,788 千円
財源内訳 特定財源	国の負担	935 千円	千円	246 千円
	県の負担	千円	千円	千円
	町の借入	千円	千円	千円
	その他	800 千円	900 千円	200 千円
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円
一般財源（町の負担）		9,291 千円	12,890 千円	14,342 千円
受益者負担率（D／C）		0 %	0 %	0 %

【事業の評価】

区分		評価		説明
妥当性	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	B	町以外では行えない	文化財保護法において、文化財の保存が適切に行われるよう、地方公共団体が努めなければならないとされている。
公平性	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A	適切である	指定文化財の所有者は、自らが文化財の管理をしているため、相応の費用を負担しており、その公開・活用にも協力をいただいている。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である	県の文化財パトロール、町の文化財現況調査等を通じて、定期的に文化財の現状を把握し、修繕等必要な場合は早期に保護措置を図っている。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか （下回っている場合は、その理由）	B	目標値どおりである	災害や火災等による滅失はなかった。また、新たな指定物件はなかった。

総合評価	現状維持	文化財保護法の趣旨に基づき、文化財の適切な保存・管理に努めることを継続するとともに、旧矢崎商店を中心とした歴史的建築物の調査等を実施し、今後の文化財保存活用地域計画の策定に向けた検討を行っていく。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	拡充	前年度は従来の文化財の保存活用に加え、歴史的建造物の調査等を開始したため。

令和7年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	**博物館の活動**	担当課名	産業振興課
		担当係名	文化遺産活用係
（予算書コード）	07-01-06-12-01・14-01		
事業区分	単年度予算 ／ 運営方法：直営 ／ 委託		
事業の開始・終了	年 月 ～ 年 月 （事業に始期又は終期がある場合に記入）		
根拠法令等の名称	博物館法、下諏訪町立博物館条例、下諏訪町立博物館条例施行規則		

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	地域博物館として、地域住民が地域への理解を深め、地域を自慢に思う心を育み、地域の歴史文化を探求する場として、展示や講座などの事業展開を図る。あわせて、下諏訪町を訪れる観光客の皆様にもこの地域の魅力を伝え、歴史文化を体感していただくような文化観光に繋げていく。						
事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和5年度	令和6年度	令和7年度
	利用者数（年間入館者数）	入館者の人数をカウント	人	目標	4,200	4,500	4,000
				実績	5,097	3,447	3,578
				達成率	121.4%	76.6%	89.5%

【投入されたコスト・業務量】

			令和6年度決算		令和7年度決算		令和8年度予算	
事業費	事業費 A		2,656 千円		4,448 千円		5,544 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費		0.60 人	1,429 千円	1.60 人	4,031 千円	1.60 人	3,246 千円
	正規職員人件費 B		0.80 人	5,550 千円	0.80 人	5,836 千円	0.80 人	6,005 千円
事業費合計 C（A＋B）			8,206 千円		10,284 千円		11,549 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担		千円		千円		千円
		県の負担		千円		千円		千円
		町の借入		千円		千円		千円
		その他		千円		千円		千円
		うち 使用料・手数料 D		千円		千円		千円
	一般財源（町の負担）		8,206 千円		10,284 千円		11,549 千円	
受益者負担率（D／C）			0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区分		評価		説明
妥当性	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	B	町以外では行えない	町立博物館として、設立意義及び博物館法の規定による使命に基づき、町が行うものであるが、実際の事業実施にあたっては地域住民や関係団体との協働、及び関係機関との連携により行っている。
公平性	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A	適切である	広い範囲の方々に来館、参加を呼びかけ、費用負担については、地域の歴史文化の学習の場であることから必要最低限の負担としている。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である	通常の開館業務に加え、秋期に浪人塚160周年を記念した企画展、講演会等のイベントを実施するなど、限られた人員、予算の中で効果を上げている。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか （下回っている場合は、その理由）	C	目標値以下である	コロナ禍前の水準には回復したものの、施設のPR不足などの理由により、目標を上回ることができなかった。

総合評価	**手法改善**	施設のPRとともに、常設展示の充実、定期的な企画展の開催などにより、魅力的な博物館運営に努め、展示図録の発行や、ミュージアムグッズの開発などにも取り組んでいく。
	手法改善の内容	関連イベントや学芸員による講座の開催についても検討し、繰り返し足を運んでもらえる博物館を目指す。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	手法改善	

令和7年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	**博物館資料の保存整理**	担当課名	産業振興課
		担当係名	文化遺産活用係
（予算書コード）	07-01-06-16-01		
事業区分	単年度予算 ／ 運営方法 ／ 直　営		
事業の開始・終了	年　月 ～　年　月　（事業に始期又は終期がある場合に記入）		
根拠法令等の名称	博物館法、下諏訪町博物館条例、文化財保護法、下諏訪町文化財保護条例		

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	地域に残され、伝承されてきた貴重な文化遺産を広く収集し、整理保存することで、次世代へ引き継いでいくとともに、展示や事業等で活用できるよう、調査研究を通じて史料価値を高めていく。						
事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和5年度	令和6年度	令和7年度
	資料整理数	資料カードを起票した数	枚	目　標	1,000	700	700
				実　績	780	567	2,525
				達成率	78.0%	81.0%	360.7%

【投入されたコスト・業務量】

			令和6年度決算	令和7年度決算	令和8年度予算
事業費	事　業　費　A		1,136 千円	491 千円	2,850 千円
		うち 会計年度任用職員人件費	1.00 人　769 千円	1.00 人　429 千円	0.80 人　　千円
	正規職員人件費　B		0.50 人　3,469 千円	0.50 人　3,648 千円	0.50 人　3,753 千円
事業費合計　C（A＋B）			4,605 千円	4,139 千円	6,603 千円
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円
		うち 使用料・手数料　D	千円	千円	千円
	一般財源（町の負担）		4,605 千円	4,139 千円	6,603 千円
受益者負担率（D／C）			0 %	0 %	0 %

【事業の評価】

区　分		評　価		説　明
妥当性	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	B	町以外では行えない	博物館法の趣旨に沿い行うものであり、専門知識を有する職員が実施する必要がある。
公平性	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A	適切である	収集した資料は、整理保存、調査研究を通じて、学校教育や住民の学習、研究者の研究活動等に役だてられている。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である	専門的知識、技術を持つ職員が適切な方法で、費用を抑えながら効率的に資料化している。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか （下回っている場合は、その理由）	A	目標値以上である	収蔵資料の再整理が進み、目標を上回ることができた。

総　合　評　価	**現状維持**	近年、家の建替えや売却などに伴う資料の寄贈が増加している。持ち込まれた資料の受入れ体制を強化するとともに、文化財の重要性についての情報発信することにより資料の収集数を増やし、さらに活用につなげるサイクルを構築していく。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	手法改善	資料整理が進展したため。

令和7年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	**博物館の維持管理**			担当課名	産業振興課
				担当係名	文化遺産活用係
（予算書コード）	07-01-06-10-01				
事業区分	単年度予算	運営方法	直　営	委　託	
事業の開始・終了	年　月 ～	年　月	（事業に始期又は終期がある場合に記入）		
根拠法令等の名称	博物館法、下諏訪町博物館条例				

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	博物館は、資料の収集・保管・展示をする施設であることから、適切な環境下での資料保存が求められているとともに、地域の歴史文化の学習拠点でもあるため、利用者にとっての快適な環境づくりのため施設全体の適切な維持管理を行う。						
事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和5年度	令和6年度	令和7年度
		維持管理に係る経費であることから指標設定は困難		目　標			
				実　績			
				達成率			

【投入されたコスト・業務量】

			令和6年度決算	令和7年度決算	令和8年度予算
事業費	事　業　費　A		12,175 千円	11,662 千円	34,907 千円
	うち 会計年度任用職員人件費		人　千円	人　千円	人　千円
	正規職員人件費　B		0.40 人　2,775 千円	0.40 人　2,918 千円	0.40 人　3,002 千円
事業費合計　C（A＋B）			14,950 千円	14,580 千円	37,909 千円
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	23,000 千円
		その他	3,485 千円	1,906 千円	4,882 千円
		うち 使用料・手数料　D	834 千円	906 千円	1,338 千円
	一般財源（町の負担）		11,465 千円	12,674 千円	10,027 千円
受益者負担率（D／C）			5.579 %	6.214 %	3.53 %

【事業の評価】

区　分		評　価		説　明
妥当性	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	B	町以外では行えない	地域の文化遺産を収集・保存・展示する施設であること、また、博物館法に基づく登録博物館であることから、直営による運営は必須である。
公平性	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A	適切である	社会教育法の精神に基き、博物館法及び町博物館条例に則して、公平かつ適正な維持管理に努めている。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	B	検討の余地がある	竣工から30年以上が経過し、建物、空調設備などの老朽化による不具合が顕著となっており、施設全体の改修計画の策定が必要である。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか （下回っている場合は、その理由）			施設の日常的な維持管理であり、目標値の設定が困難であるため、指標設定はなじまない。

総合評価	**拡　充**	令和8年度に屋根等防水工事を実施するが、他にも大規模な改修が必要な箇所が残されているため、最善の改修方法や、建築、設備等の修繕の優先順位などについて検討したうえで、なるべく早期に大規模改修に着手できるよう、関係部局と調整を図っていく。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	拡　充	

令和7年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	宿場街道資料館の維持管理	担当課名	産業振興課
		担当係名	文化遺産活用係
（予算書コード）	07-01-06-18-01		
事業区分	単年度予算 ／ 運営方法	直営 ／ 委託	
事業の開始・終了	年 月 ～ 年 月 （事業に始期又は終期がある場合に記入）		
根拠法令等の名称	博物館法、下諏訪町博物館条例		

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	明治初頭に建築された歴史的建造物を適切に維持管理するとともに、宿場や街道の歴史文化を学ぶ施設として、利用者が快適に利用できるように維持管理に努める。						
事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和5年度	令和6年度	令和7年度
	利用者数（年間入館者数）	入館者の人数をカウント	人	目標	11,000	11,000	11,000
				実績	12,310	10,791	9,521
				達成率	111.9%	98.1%	86.6%

【投入されたコスト・業務量】

			令和6年度決算			令和7年度決算			令和8年度予算		
事業費	事業費 A			3,305 千円			2,010 千円			2,107 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費		1.00 人	2,449 千円		人	千円		人	千円	
	正規職員人件費 B		0.20 人	1,388 千円		0.20 人	1,459 千円		0.20 人	1,501 千円	
事業費合計 C（A＋B）				4,693 千円			3,469 千円			3,608 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担		千円			千円			千円	
		県の負担		千円			千円			千円	
		町の借入		千円			千円			千円	
		その他		千円			千円			千円	
		うち 使用料・手数料 D		千円			千円			千円	
	一般財源（町の負担）			4,693 千円			3,469 千円			3,608 千円	
受益者負担率（D／C）				0 %			0 %			0 %	

【事業の評価】

区分		評価		説明
妥当性	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	B	町以外では行えない	地域における歴史文化の学習拠点として、また文化遺産を活かしたまちづくりの拠点施設として、直営による運営が必要である。
公平性	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A	適切である	社会教育法の精神に基き、博物館法及び博物館条例に則して、公平、適正に維持管理している。なお、当館の入館料は利用促進の観点から無料としている。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である	不具合箇所については早期の修繕を図り、歴史的建造物を適切に維持している。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか （下回っている場合は、その理由）	C	目標値以下である	目標値を若干下回ったものの、ほぼ目標を達成することができた。

総合評価	現状維持	下社秋宮、中山道が近接し、観光客が散策するエリアに立地することから、来館者に喜ばれる施設運営を維持しながら、展示内容の定期的な見直し、三角八丁などイベントにおける活用も図っていく。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	現状維持	

令和7年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	伏見屋邸の維持管理			担当課名	産業振興課
				担当係名	文化遺産活用係
（予算書コード）	07-01-06-22-01				
事業区分	単年度予算	運営方法	直　営	委　託	
事業の開始・終了	年　月 ～　年　月　（事業に始期又は終期がある場合に記入）				
根拠法令等の名称	博物館法、下諏訪町博物館条例				

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	国登録有形文化財の歴史的建造物を適切に維持、保存し、良好な状態で次世代に継承するとともに文化財の活用とおもてなしによる交流施設として、多くの方に親しまれるよう維持していく。						
事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和5年度	令和6年度	令和7年度
	利用者数（年間入館者数）	入館者の人数をカウント	人	目　標	11,000	11,000	11,000
				実　績	8,217	8,095	8,974
				達成率	74.7%	73.6%	81.6%

【投入されたコスト・業務量】

			令和6年度決算	令和7年度決算	令和8年度予算
事業費	事　業　費　A		3,551 千円	3,710 千円	3,986 千円
	うち 会計年度任用職員人件費		人　千円	人　千円	人　千円
	正規職員人件費　B		0.20 人　1,388 千円	0.20 人　1,459 千円	0.20 人　1,501 千円
事業費合計　C（A＋B）			4,939 千円	5,169 千円	5,487 千円
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円
		うち 使用料・手数料　D	千円	千円	千円
	一般財源（町の負担）		4,939 千円	5,169 千円	5,487 千円
受益者負担率（D／C）			0 %	0 %	0 %

【事業の評価】

区　分		評　価		説　明
妥当性	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	B	町以外では行えない	地域と利用者を結ぶ交流施設として、また文化遺産を利用したまちづくりの拠点施設として、直営による運営が必要である。
公平性	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A	適切である	社会教育法の精神に基き、博物館法、町博物館条例に則して、公平、適正に維持管理している。なお、当館の入館料は無料である。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である	不具合箇所が生じた場合、早期修繕を行い、国登録有形文化財の建造物を適切に維持している。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか （下回っている場合は、その理由）	C	目標値以下である	中山道を散策する観光客が主な利用者であり、コロナ禍前の水準に回復しておらず、目標を上回ることができなかった。

総合評価	手法改善	周辺を散策する観光客の増加に期待するところではあるが、管理を委託するシルバー人材センターとも連携を図り、多くの方に足を運んでもらえる事業を展開していく。
	手法改善の内容	三角八丁などイベントにおける活用や、地元の方にも来館してもらえる企画展示の開催などを検討していく。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	手法改善	

令和7年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	今井邦子文学館の維持管理	担当課名	産業振興課
		担当係名	文化遺産活用係
（予算書コード）	07-01-06-20-01		
事業区分	単年度予算 ／ 運営方法	直営 ／ 委託	
事業の開始・終了	年 月 ～ 年 月 （事業に始期又は終期がある場合に記入）		
根拠法令等の名称	博物館法、下諏訪町博物館条例		

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	江戸時代の面影を残す歴史的建造物を適切に維持管理するとともに、女性だけの短歌結社「明日香社」を創始した今井邦子を語り継いでいく短歌・文学の学習施設として、利用者が快適に利用できるように維持管理に努める。						
事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和5年度	令和6年度	令和7年度
	利用者数（年間入館者数）	入館者の人数をカウント	人	目標	4,000	2,000	2,000
				実績	1,529	1,425	1,420
				達成率	38.2%	71.3%	71.0%

【投入されたコスト・業務量】

			令和6年度決算	令和7年度決算	令和8年度予算
事業費	事業費 A		1,788 千円	1,856 千円	1,827 千円
	うち 会計年度任用職員人件費		人 千円	人 千円	人 千円
	正規職員人件費 B		0.20 人 1,388 千円	0.20 人 1,459 千円	0.20 人 1,501 千円
事業費合計 C（A＋B）			3,176 千円	3,315 千円	3,328 千円
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円
		うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円
	一般財源（町の負担）		3,176 千円	3,315 千円	3,328 千円
受益者負担率（D／C）			0 %	0 %	0 %

【事業の評価】

区分		評価		説明
妥当性	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	B	町以外では行えない	地域における歴史文化の学習施設として、また文化遺産を活かしたまちづくりの拠点施設として、直営による運営が必要である。
公平性	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A	適切である	社会教育法の精神に基づき、博物館法及び町博物館条例に則して、公平、適正に維持管理している。なお、当館の入館料は利用促進の観点から無料としている。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である	不具合箇所について早期の修繕を図ることで歴史的建造物を適切に維持している。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか （下回っている場合は、その理由）	C	目標値以下である	施設のPR不足などの理由により、目標を上回ることができなかった。

総合評価	手法改善	令和6年度から冬期の12～2月の期間は土日・祝日のみの開館としたことも影響し、利用者数が伸び悩んでいる。常設展のリニューアルや、企画展の開催など、人を呼び込む方策について検討し、入館者増を図っていく。
	手法改善の内容	通常の利用に加え、地元の短歌会等への利用の働きかけや、観光振興局による中山道ツアーでの活用についても検討していく。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	手法改善	

令和7年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	星ヶ塔ミュージアムの維持管理					担当課名	産業振興課
						担当係名	文化遺産活用係
（予算書コード）	07-01-07-22-01						
事業区分	単年度予算	運営方法	直　営	その他		指定管理	
事業の開始・終了	年　月 ～ 年　月　（事業に始期又は終期がある場合に記入）						
根拠法令等の名称	文化財保護法、下諏訪町埋蔵文化財センター星ヶ塔ミュージアム条例						

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	国史跡「星ヶ塔黒曜石原産地遺跡」のガイダンス施設として、指定管理者と連携し適切な維持管理を図るとともに、町民や観光で訪れる多くの方々に、埋蔵文化財や黒曜石を通じた下諏訪の歴史を学習できる場として事業展開を図る。						
事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和5年度	令和6年度	令和7年度
	利用者数（年間入館者数）	今昔館の入館者数をカウント	人	目　標	10,000	8,000	8,000
				実　績	8,937	7,525	7,012
				達成率	89.4%	94.1%	87.7%

【投入されたコスト・業務量】

			令和6年度決算			令和7年度決算			令和8年度予算		
事業費	事　業　費　A				9,728 千円			3,730 千円			3,543 千円
	うち 会計年度任用職員人件費			人	千円		人	千円		人	千円
	正規職員人件費　B		0.20	人	1,388 千円	0.20	人	1,459 千円	0.20	人	1,501 千円
事業費合計　C（A＋B）					11,116 千円			5,189 千円			5,044 千円
財源内訳	特定財源	国の負担			2,988 千円			千円			千円
		県の負担			千円			千円			千円
		町の借入			千円			千円			千円
		その他			千円			千円			千円
		うち 使用料・手数料　D			千円			千円			千円
	一般財源（町の負担）				8,128 千円			5,189 千円			5,044 千円
受益者負担率（D／C）					0 %			0 %			0 %

【事業の評価】

区　分		評　価		説　明
妥当性	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	C	協働を検討すべき	日常的な運営業務については指定管理者制度を導入している。施設の維持管理、展示等の事業開催については町が直営で実施。
公平性	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A	適切である	一体的に運営される「しもすわ今昔館」として入館料を徴収。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である	指定管理者と町とで効率的に維持管理、運営している。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか （下回っている場合は、その理由）	C	目標値以下である	コロナ禍前の水準に回復していないが、観光振興局の星ヶ塔遺跡ツアーとの連携を行い、誘致誘客に努めている。

総合評価	現状維持	観光振興局による星ヶ塔遺跡の観光ツアーやその宣伝効果によって星ヶ塔遺跡への関心が全国的に高まっているため、この機会を捉えて、より多くの方に来館してもらえるよう、展示解説の更新や展示品のリニューアルなどの事業展開を図っていく。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	現状維持	

令和7年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	星ヶ塔遺跡の管理					担当課名	産業振興課
						担当係名	文化遺産活用係
（予算書コード）	07-01-07-14-01						
事業区分	単年度予算	運営方法	直　営	委　託			
事業の開始・終了	年　月 ～		年　月	（事業に始期又は終期がある場合に記入）			
根拠法令等の名称	文化財保護法、下諏訪町文化財保護条例						

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	国史跡「星ヶ塔黒曜石原産地遺跡」を適切に保存し、良好な状態で次世代に継承していくとともに、町観光振興局が開催する観光体験プログラムのツアー見学場所として、参加者が安全に見学できるよう日常的な整備を行う。						
事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和5年度	令和6年度	令和7年度
		国指定文化財の保存・管理に係る経費であることから指標設定は困難		目　標			
				実　績			
				達成率			

【投入されたコスト・業務量】

			令和6年度決算	令和7年度決算	令和8年度予算
事業費	事　業　費　A		201 千円	88 千円	210 千円
	うち 会計年度任用職員人件費		人　千円	人　千円	人　千円
	正規職員人件費　B		0.30 人　2,081 千円	0.30 人　2,189 千円	0.30 人　2,252 千円
事業費合計　C（A＋B）			2,282 千円	2,277 千円	2,462 千円
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円
		うち 使用料・手数料　D	千円	千円	千円
	一般財源（町の負担）		2,282 千円	2,277 千円	2,462 千円
受益者負担率（D／C）			0 %	0 %	0 %

【事業の評価】

区　分		評　価		説　明
妥当性	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	A	法律で義務付けられている	文化財保護法による史跡星ヶ塔黒曜石原産地遺跡の管理団体は町であるため、町が管理しなくてはならない。
公平性	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A	適切である	令和3年度から始まった町観光振興局による観光ツアーが令和5年度も継続され、県内外から多くの方が遺跡に訪れるようになり、全国的な幅広い地域の、幅広い世代の方に遺跡を楽しんでいただいている。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である	観光係や観光振興局にも協力を得て、効率的に現地の管理を行っている。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか （下回っている場合は、その理由）			草刈りや散策路の整備が主な業務内容であることから、目標値の設定が困難であるため、指標設定になじまない。

総合評価	現状維持	観光振興局による観光ツアーで多くの方が遺跡を訪れるようになり、遺跡の活用という面では大きな成果が上がっている。今後も観光ツアーによる活用を継続できるよう、適切な遺跡の保存管理に努め、遺跡の魅力を十分に伝えられるよう維持を図っていく。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	現状維持	

令和7年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	柿蔭山房公開活用事業	担当課名	産業振興課
（予算書コード）	07-01-07-16-01	担当係名	文化遺産活用係
事業区分	単年度予算 ／ 運営方法：直営 ／ 委託		
事業の開始・終了	年 月 ～ 年 月 （事業に始期又は終期がある場合に記入）		
根拠法令等の名称	文化財保護法、下諏訪町文化財保護条例		

【事業の概要及び分析】

事業の目的 （誰に対して） （何のために） （何を行うか）	町指定文化財「島木赤彦住居（柿蔭山房）」を適切に維持管理し、良好な状態で次世代に継承するとともに、歴史的建造物を学ぶ施設として、また歌人島木赤彦の業績を伝える学びの施設として公開活用を図る。						
事業の活動成果 （事業の実施によりどのような状態にしたいか）	指標名	指標の算出方法	単位		令和5年度	令和6年度	令和7年度
	利用者数（年間入館者数）	入館者の人数をカウント	人	目標	130	50	50
				実績	47	14	97
				達成率	36.2%	28.0%	194.0%

【投入されたコスト・業務量】

			令和6年度決算	令和7年度決算	令和8年度予算
事業費	事業費 A		294 千円	426 千円	681 千円
		うち 会計年度任用職員人件費	人 千円	人 千円	人 千円
	正規職員人件費 B		0.20 人 1,388 千円	0.20 人 1,459 千円	0.20 人 1,501 千円
事業費合計 C（A＋B）			1,682 千円	1,885 千円	2,182 千円
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円
		うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円
	一般財源（町の負担）		1,682 千円	1,885 千円	2,182 千円
受益者負担率（D／C）			0 %	0 %	0 %

【事業の評価】

区分		評価		説明
妥当性	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	B	町以外では行えない	町が所有する指定文化財であるため、町が管理・運営する。
公平性	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A	適切である	町指定文化財として保護を図る一方で、定期的に施設内部を公開し、講座等の事業を行うことで活用を図り、町民や観光客の方々に訪れていただいている。
効率性	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である	施設内部の公開に当たっては、シルバー人材センターへ開閉及び管理を委託することで業務の効率化を図っている。
達成度	事業の活動成果は目標を上回っているか （下回っている場合は、その理由）	A	目標値以上である	イベントの開催等を通じ、利用者数を増やすことができた。

総合評価	現状維持	関係団体の協力により、イベントを開催するなどして利用者を増やすとともに、柿蔭山房について認知してもらう機会を増やし、さらに利用の増進を図っていく。
前年度の総合評価 （評価が変わった場合はその理由）	手法改善	利用者数の増が達成できたため。